

テントウムシ みわけ図鑑

ずかん

きょうと☆
いぎもの調査

※このみわけ図鑑では、体長
3mm以上のテントウムシ
のみを扱います。

おおきさ 1cm以上

1cm



ハラグロ
オオテントウ
クワキジラミを食べるので
クワの木で見つけやすい。



カメノコテントウ
ハムシの幼虫を食べる
肉食のテントウムシ。

おおきさ 3mm-1cm

ジュウクホシ
テントウ



フオルムが
似てる。

ジュウサンホシ
テントウ



ヤマトアザミ
テントウ



ウンモン
テントウ

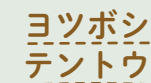


ナナホシ
テントウ



アブラムシ
大好き！

ヨツボシ
テントウ



背面に毛がある。
模様が少しずつ違う。

モンクチビル
テントウ 外



分布を広げている外来種。

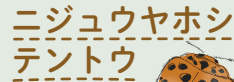
トホシ
テントウ



ベダリア
テントウ 外



ニジュウヤホシ
テントウ



オオニジュウ
ヤホシテントウ



あか
赤・オレンジに星

アイヌテントウ
ナナホシテントウに
似るが、星が11個。



トマトやナスの葉を食べるので、
農家さんを困らせている。

いろいろな模様のあるテントウムシ

ナミテントウ

全国的に広く分布。
100通り以上の模様
が知られている。



星が2つあるもの、
まだら柄など、
その模様は様々。

ヒメカメノコ
テントウ

イラスト以外にも、
いろんな模様がある。



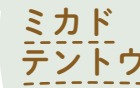
マクガタ
テントウ



クモガタ
テントウ 外

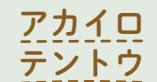


ミカド
テントウ



イチイガシにいる。

アカイロ
テントウ



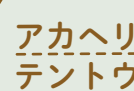
背面に毛がある。

その他の模様

模様をチェック！

模様がない

アカヘリ
テントウ



背面に毛が
ある。
ヘリが赤い。

ベニヘリ
テントウ

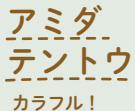


胸部にも赤が入る。

ミスジキイロ
テントウ 外



アミダ
テントウ

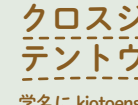


カラフル！

ダンダラテントウ
「ダンダラ模様」が名前の由来
だが、それ以外の模様もある。

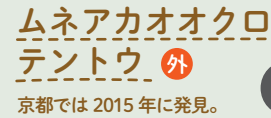


クロスジチャイロ
テントウ



学名に kiotoensis (京都の、という意味) がつく。

ムネアカオオクロ
テントウ 外



京都では 2015 年に発見。

☆ みわけポイント ☆

① 大きさをチェック！

② 模様をチェック！

(色、星のあるなしなど)

● 実寸大 外 外来種

参考文献：初宿成彦 (1999) ミニガイド No.16 「大阪のテントウムシ」．大阪市立自然史博物館、日本環境動物昆虫学会編 (2009) テントウムシの調べ方．
桜谷保之・初宿成彦監修、文芸春秋、Sasaji, H. (1971) Fauna Japonica Coccinellidae. Keigaku Publishing Co.、阪本優介 (2018) テントウムシ
ハンドブック．文一総合出版、池田隆 (2017) 外来種ムネアカオオクロテントウを京都府で発見．さやばねニューシリーズ、28, pp49-50

きょうと☆ いきもの調査

ちょうさ

みんなでテントウムシを調べよう！

しら

きょうと生物多様性センターでは、身近な自然環境の現状を把握することを目的に、テントウムシをテーマに住民参加型の生物調査を実施します！

テントウムシの成長について

テントウムシは卵→幼虫→さなぎ→成虫と姿を変えながら成長します。成虫の姿は有名ですが、幼虫やさなぎは成虫とまったく違う姿をしています。



テントウムシの越冬と越夏

春の河川敷でよくナナホシテントウが見られますが、実は一年を通して観察することができます。いろいろなテントウムシが、暑い夏には木の葉裏やススキの株元に、寒い冬には樹皮のすき間やススキの株元に入り込んで過ごすことが知られています。それぞれ「越夏」「越冬」といい、この時は活発に動かず、じっとしていることが多いです（「夏眠」「冬眠」といいます）。

調査対象種

府内で見られるテントウムシ



報告内容

見つけたテントウムシ・月日・場所
（任意：写真、気付いたこと）
（例：たくさんのナナホシテントウがススキの株元で越冬していた、など）

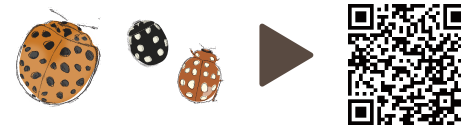
報告いただいた内容はセンターで
取りまとめ、HPなどで公開します！

調査期間

通年、情報を受け付けています

報告方法

ポータルサイト
「京・生きものミュージアム」上で報告
(<https://ikimono-museum.city.kyoto.lg.jp/report-donguri/>)



お寄せいただいた情報は、
随時 HP にて公開中！

作成：きょうと生物多様性センター

監修：櫻谷 保之（さくらたに やすゆき）先生

元近畿大学農学部教授。専門は昆虫生態学、里山生態学。様々な研究に取り組み、テントウムシの越夏と越冬の場所やその生態について、複数の論文を発表。著書に『自然観察のポイント』（文一総合出版、2017）、『テントウムシの調べ方』（監修、文教出版、2009）など、一般向けにわかりやすく解説した本も執筆されている。

—お問合せ—

きょうと生物多様性センター

Tel：075-744-1107/

075-354-5275

Mail: contact@kyotobdc.jp

HP



X



Instagram

